



本物の 修学旅行♪

リビングサービス課
大森 力

この4月、某メーカーの招待旅行で宮古島に連れて行って頂きました。
沖縄県の本島や石垣島へは行ったことがあったのですが、宮古島へは初めてで同じ日本、また沖縄県であってもその場所へ行くと違うものだなあ、と思うことや学ぶことがありましたので報告したいと思います。

1つは4月、ちょうど伊賀では桜が満開の時期で花粉症の声もちらほらあった時期でした。しかし、宮古島では花粉症にはなりません。驚きです。宮古島は沖縄県本島と石垣島の間に位置していて、気温が25℃前後。暑いくらいでしたから春がなくて夏ばかりなのが理由なのかなと思いました。

現地の人話では…実は宮古島にはスギが存在しないとのこと。スギの木は、細く高く育ちます。細く高く育つということは、沖縄の台風には耐えられないため存在しないのです。沖縄の代表的な木で、台風に強いといえば、ガジュマルの木です。根を複雑にからめて、地中にしっかりと固定されてそうですよね。毎年、多くの台風が通過する沖縄ではそもそもスギの木が大きく成長するのは難しいかと思ひます。

つらい花粉症に悩む方にとって、花粉シーズンは地獄のような日々だと思います。私も多少の花粉症もちの一人です。くしゃみ・鼻水・目やのどのかゆみ考えるだけで嫌になります。花粉症がひどいので、花粉症のシーズンだけ宮古島にロングステイされている方も少なくないと言ひました。宮古島は花粉症がないから、天国でしょう。私も、毎年花粉症の時期は、宮古島に住めるように頑張ろう!!

2つに宮古島には、ハブがいらないらしいのです。沖縄本島ではハブとマングースというくらい有名ですし、石垣島や奄美大島にも生息しています。なので暖かいところには必ずいると思っていました。

現地の人話では…理由の一つにハブは、酸性の土壌に生息するといわれていて、アルカリ性の土壌を非常に嫌うそうです。宮古島は、島の土台ともいえる粘土の層の上に、サンゴ礁が風化してできた琉球石灰岩の層が広がり、さらにその上に、人々が耕作を行う表土の層が重なった三層で成り立っています。サンゴの石灰岩層が酸性を抑えてアルカリ性の方向にしているのです。

さらにマンゴーの栽培に適した弱アルカリ性の赤土、島尻マージでハブが苦手とする、弱アルカリ性の消石灰やサンゴを土壌の肥料として、家の周りに撒いていたそうです。

そのおかげもあり、滞在中は外での散歩や早朝ジョギングもハブを心配することなくできたのかなと思いました。

学生時代の修学旅行で真面目に修学していた人はそうはいないと思います。私もそうで、当時〇〇年前、学校の修学旅行では行きたい場所でもなんでもなく興味も意欲もなく、やらされているだけのようでした。特にお寺や神社などは興味がありませんでした。

現実の修学旅行はレジャー半分、団体行動半分、学習は…。しかしようやく旅行は学習のための旅行なのだと思うようになりました。歴史や地理は教科書ではテストの為の一夜漬けの記憶しか持ちませんでしたが、現地に行けば五感で体感できるので強く記憶に残り知識になると思います。それが本物の修学旅行なのです。

旅行の楽しみ方について、人それぞれあると思いますが、一度真面目に修学旅行してみてもはどうでしょう。



伊良部大橋 2015年完成



ガジュマルの木



近隣のサービスエリアで土産買いに行ったつもりで夏旅行

アポロ新聞



モグラ観察記

ホームガス課 山岡 高志

春の休日のお昼、4歳と2歳の息子二人と家の近くを散歩していると、長男が「パパー、ネズミがいるー」と大声で私を呼んでいるので、見に行ってみました。

な、なんと、モグラの子供が道をチョコチョコと横切っているではありませんか。

今まで、生きている動くモグラを見たことがない私は、一気にテンションが上がり子供そっちのけでモグラの動きに夢中になってしまいました。

触るわけにもいかず、モグラを追いかけて観察していると、少し水のある側溝に落ちてしまいました。

這い上がれなくなってしまったモグラを拾い上げて少しだけ自宅の庭で観察しようと思い、連れて帰りました。

普段子供が遊んでいる我が家の70センチ角ほどのプラスチックの砂場に放してみると、想像通り、いや、想像以上にモグラらしく鼻を押し当てるように穴を掘り潜っていきます。

しかしそこは浅いプラスチックの砂場、体が隠れるか隠れないかぐらいしか潜れません。

夕方、妻が帰宅するまで砂場で飼おうと思い、色々調べていると、モグラを飼う事は、ほぼ不可能だという事が分かりました。

モグラの特性は

●12時間餌を食べないと餓死する ●大食漢で餌の確保が大変 ●環境の変化に敏感で非常に神経質

モグラと言えば、日光に耐性がなく、当たると死んでしまうとの迷信が有名ですが、実際の所、モグラは日光に当たっても死にません。

しかしながら日光に当たる事で体温が上昇し、その変化に体がついていけなくなり体調不良に陥り、場合によっては死に至ることはあるようです。

そしてモグラは毎日体重の半分を超える量の餌を食べます。毎日それだけの新鮮な餌を確保するのは一苦労です。

さらに、モグラの捕獲は各都道府県知事に申請し、許可をもらわなければなりません。もし許可なくモグラを捕獲すると『懲役1年または100万円以下の罰金』に処せられます。

ただし農林業務のためのやむを得ない捕獲・駆除についての許可は不要です。

つまり研究・飼育・駆除(農林業務外)をするには、必ず各都道府県知事に許可を申請しなければならないのです。

そもそも捕まえる事すらしてはいけないう行為だった事に気づかされ、子供と一緒に自然へもどす事にしました。

畑に放すと、まさに『水を得た魚』のように、一目散に土の中に帰っていき、モグラには申し訳ない事をしたなあ…と思いながらも子供と「ラッキーだったね!」と良い思い出ができたことを嬉しく思います。

しかしその数日後、ホームセンターでモグラの駆除セットが販売されているのを見て、農業等をしている方達からすれば害獣なのだと気づかされ複雑な気持ちになりました。

ともあれ、なかなかのレア度☆☆☆☆☆に大満足の休日を過ごし、子供と自然を満喫できる喜びをひしひしと感じている今日この頃です。

